

音の輪・音の和



一般社団法人
兵庫音楽療法士会

2022年3月発行 No.12

『一般社団法人兵庫音楽療法士会 20周年記念式典及び特別講演』を終えて



～20周年記念式典を
ふりかえって～

実行委員長 井上 恭子

令和3年6月13日(日)ANAクラウンプラザホテル神戸において、当会の20周年記念式典を開催いたしました。コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、感染症対策を徹底し、ご来賓の皆様にもご出席いただき無事開催出来ましたことを、大変嬉しく思いました。私たちらしい式典にしたいと足掛け二年準備し、会員による合奏や合唱も披露いたしました。演奏や式典・講演に参加した会員、参加は叶わなくても見守ってくれた会員、そしていろいろな係を担当した会員など、多くの会員の関わりによって成功裡に収めることができたことを感謝いたします。

私たちは発会より20年間毎月研修会を実施し、常に学びの機会を持ち続けてきました。また会員それぞれが担当部署に所属し、実務の係を一緒に行うなど、そのチームワークはコンサート活動でも発揮されました。ご来賓の方に「温かい式典でしたね」と言

っていたいただいた20周年式典と、たくさんの写真と共に懐かしい想いが込み上げてくる記念誌は、そんな私たち会員の20年間の歩みの集大成だと思っています。



～20周年の節目を迎えて、
当会のこれから～

一般社団法人 兵庫音楽療法士会 理事長 鞘本 尚子

20周年記念式典を終えて一息ついたところで当会のこれからのことを考える機会を得ました。

現在、日本で一番大きな音楽療法組織である一般社団法人日本音楽療法学会では、音楽療法士の国家資格化に取り組んでいます。

今後、兵庫音楽療法士の国家試験受験についてはどのようになって行くのかはまだわかりませんが、日本音楽療法学会認定音楽療法士も兵庫音楽療法士も同じ任意資格です。情報収集をしっかりと、日本国内の音楽療法士の流れに乗っていきたいと思います。

兵庫音楽療法士は全国唯一の行政のバックアップによる活動ができている音楽療法士です。

阪神淡路大震災をきっかけに兵庫県が音楽療法を県内全域に普及させるという目標を持って取り組む中で生まれた兵庫音楽療法士は、これまでと同じように兵庫県の音楽療法普及という目標に向かって活動し、前進できるよう願っています。合言葉は『感謝と前進!』



もくじ

- 20周年記念式典を終えて…………… 1
- 20周年記念式典…………… 2
- 第9回山口陽雄記念賞授与式…………… 3
- 特別講演/楽器紹介&音楽の豆知識… 4

- 追悼文 ～司馬良一先生を偲んで～… 5
- 2021年度研修会・事例研究会…………… 6
- 県内参加型コンサート開催事業…………… 7
- 音楽療法普及・促進強化事業…………… 8
- information…………… 8

20周年記念式典

前兵庫県知事 井戸 敏三氏

長年当会を支えてくださった井戸前知事より、会員によるオープニングの演奏に「兵庫県音楽療法士会が発足されて20年を迎え、いろいろな楽器を演奏できる役者が揃いましたね。」とお言葉をいただき、一句ご披露くださいました。(井戸前知事からいただいたご祝辞は、20周年記念誌に掲載しております)

音楽を
心のケアに活かさんと
療法士集いて二十年



祝 辞

一般社団法人兵庫県音楽療法士会 前監事
兵庫県音楽療法士認定審査委員会 前委員長
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 顧問

司馬 良一氏

兵庫県音楽療法士会設立20周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私は医療の現場で仕事をしております。病院から患者さんを福祉施設に紹介するケースが多く、利用者さんやご家族たちから「この施設は音楽療法をやっていますか?」と尋ねられることが増えてきております。嬉しいことであります。施設を選択する要件に、今や福祉施設では生活の質といいますか、生活に潤いを持たせられるということで、音楽療法はなくてはならない療法の1つとなってきております。

そして、このことは利用者さんたちにも知れわたってきています。これは兵庫県音楽療法士会が20年にわたり社会の期待に応え、兵庫県下の福祉・教育・保健・医療などの分野に音楽療法を導入され、普及に尽力されてこられた成果であり、これは素晴らしいの一言に尽きます。このようにご活躍、ご活動ができたのは多くの方々のご支援は勿論のこと、組織的に対応できる「会」の存在があったからだと思います。でもこの20

年間は、決して容易な道のりでなかったと私は見受けてまいりました。幾つもの難局を乗り越え、ここまでもってこられました貴会の歴代の会長、理事長、役員、会員の皆様の熱意と努力に心から敬意を表するものであります。新型コロナウイルスの先がまだ見えない時期であります。本日、臨床の現場で皆様の20年のご活躍の成果の蕾が見えてきましたよ、と披露させていただき、貴会のさらなる活躍、さらなる発展を祈願し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。



● 知事賞の受賞
当会20周年にあたり、知事より表彰状が授与されました。

山口 紅子先生への感謝状

【 医療法人社団向陽病院理事長 山口 紅子様

あなたは山口先生と共に兵庫県音楽療法士会発会より今日まで陰になり日なたになり私たちを支えいつも優しく温かく見守ってくださいました。二十周年を迎えるにあたり今までいただいた深い愛情とご支援に会員一同心より感謝の意を表します。

令和3年6月13日

一般社団法人 兵庫県音楽療法士会 理事長 鞆本 尚子 】



当会の生みの親、育ての親でもある山口紅子先生からもお言葉をいただきました

「皆さま、20周年記念式典おめでとうございます。こんなに沢山の方々がお集まりいただくとは存じておりませんで、誠に立派な会になったと心からお慶び申し上げます。20年と申しましても『二十歳』という時期は大変な時で、これからが、また大変な時だと思えます。皆様方が『音楽療法』を続けるという事は大変なことで、お金もかかりますし、時間もかかります。けれど、頑張ってお続けくださいますよう、心よりお慶び申し上げます、これでご挨拶とさせていただきます。」



第9回 山口陽雄記念賞授与式



音楽療法の普及発展・音楽療法士の士気向上を図る目的として設立された山口陽雄記念賞の授与式が、今年は当会の20周年記念式典の中で行われ、井上恭子会員が受賞しました。

審査委員長の阿部恩氏（頌栄短期大学名誉教授）が「多岐にわたる業績、ならびに実践活動に加え、兵庫県音楽療法士会の運営にも責任を負いつつ、音楽療法普及活動にも尽力され、その功績が特に顕著であると推薦を受けられた井上恭子氏を受賞者として報告いたします。」と審査講評を述べられました。

医療法人社団向陽会向陽病院理事長山口紅子氏より、お祝いの言葉と賞状ならびに副賞が贈られました。受賞者の井上恭子会員は「晴れやかな20周年記念式典の中で、栄えある賞をいただいたことは、大変光栄なことで感謝いたします。このような賞を受賞できましたのは共に切磋琢磨した仲間にも恵まれたこと、多くの諸先生方からたくさんの学びを得られたこと、特に山口陽雄先生には音楽療法に関して、確固たる信念を持つこと、紅子先生からは人に対して慈しみの心を持つことを教えていただきました。今後も音楽療法と真摯に向き合い、精進してまいります。」と謝辞を述べました。

合唱 山口 陽雄 作曲合唱メドレー

♪おめでとう ♪風よ運んで ♪花を贈ろう



司会進行：内橋会員



トーンチャイム演奏

七夕によせて ☆お星さまメドレー☆





【特別講演】

講師：智内 威雄氏（左手のピアニスト）

演題『苦難の歴史を乗り越えて開かれた未来に』

〔演奏曲〕 シューベルト「アヴェマリア」・スクリャービン「前奏曲と夜想曲」・
バッハ（ブラームス編曲）「シャコンヌ」他

「アヴェマリア」の演奏から始まり、会場は荘厳な響きに包まれました。ウイットに飛んだ智内氏のお話で観客は和み、さらに「左手のピアノ」の世界に引き込まれていきました。

中でも演奏時間が13分という大作「シャコンヌ」は、左手だけで奏でているとは信じがたいほどのエネルギーで情熱的な響きに圧倒されました。

智内氏は「左手の為のピアノ」が年齢や障がいのあるなしに関わらず、誰もが気兼ねなく参加できるものになることを願い、後世に残していく活動を積極的になさっています。教本も編纂され、その作業の際には「音を削っていく作業が奥深いもの」と話されました。それは、私たち音楽療法士が対象者の心身に伝わる音を探求、選別し、提供していくことに繋がるのではと感じました。私たちが「音楽療法」が身近になり受け継がれていくように、活動を継続していかねければと再認識しました。

今後も智内氏の益々のご活躍を心より祈念しております。



東京音楽大学、ハノーファー音楽大学を卒業。留学中に国際コンクールに入賞受賞するが、右手に局所性ジストニアが発症。03年に左手のピアノ音楽と出会う。その分野の復刻普及を目指し芸術振興と教育福祉事業を手がけ高く評価されている。07年に関西テレビ、13年にNHKがドキュメンタリー番組を制作。16年に神戸アートアワード大賞受賞、17年にJasrac音楽文化賞を受賞。18年に世界初の左手のピアノ国際コンクールを主催し、NHK制作のドキュメンタリー番組が総務大臣賞にノミネートされる。20年にNHKがインタビューによるドキュメンタリー番組を制作。同年、埼玉県蕨市けやき文化賞受賞。
現在、東京音楽大学非常勤講師、一般社団法人ワンハンドピアノミュージック代表理事、「左手のアーカイブ」プロジェクト代表を務める。

楽器紹介 & 音楽の豆知識



【楽器紹介】

●ベルハーモニー（デスクタイプ）

ベルハーモニーは音がド→赤・レ→橙（※SUZUKI）と音別に色分けされたベルになっています。手で振って演奏するハンドタイプと机などに置いてキャップを上から手で押して演奏するデスクタイプがあります。今回はデスクタイプについてご紹介します。

デスクタイプはベルを持つこと、持つことができてもベルをうまく振ることが難しい方や、音楽に初めて触れる子ども、楽譜が読めない方でも音が色別に分けられおり、ベルのキャップ部分を押すだけなので簡単に演奏することができます。また、置き方を工夫すれば様々な演奏が可能になります。例えば、ド・ミ・ファ・ソ・シ・ドの音を選べると沖縄音階になり沖縄の雰囲気を楽しめます。ド・ミ・ソといった複数の音を同時に鳴らす和音も取り入れやすく、数人でテーブルを囲みそれぞれの音を担当しながら1曲をベルの演奏で楽しむこともできます。決められた音を出すことで集中力アップと脳の活性化にも繋がります。



【音楽の豆知識】

●自殺したいぐらい厭世的な気分の中から生まれた「手のひらを太陽に」

作詞者でマンガ家のやなせたかし（1919～2013）は、マンガ「アンパンマン」の作者として子どもたちに広く親しまれています。「手のひらを太陽に」は1961（昭和36）年、日本教育テレビ（現在のテレビ朝日）の番組の中で、宮城まり子の歌で発表されました。その後、ポニージャックスが「NHK 紅白歌合戦」で歌って大ヒットとなり、『生命の讃歌』として学校の音楽の教科書にも採用されました。

しかし、この曲は当初、子ども向けの歌として作られたものではありませんでした。彼は心身ともに疲れ切って、自殺したいぐらい厭世的な気持ちに追い込まれた時期がありました。暗い中、懐中電灯で冷たい手を温めながら仕事をしていた時、ふと電球を手のひらにあててすかしてみると真っ赤な血が見え、自分は生きているんだ！という再発見をします。さらにその喜びを謳歌して頑張らなくちゃ！と、自分自身を励ますためにこの詞は作られました。そしてトンボやカエル、ミツバチだって、生きているのはみんな友だち、だから生命を大切にしようねと訴えているのです。

※参考文献 長田暁二 著
知ってるようで知らない 音楽おもしろ雑学辞典 より

※「楽器紹介&音楽の豆知識」の記事を初刊から12年間執筆してきた佐藤理恵広報部員は今号で担当を終了いたします。長期間ありがとうございました。

追悼文



兵庫県音楽療法士会に多大なるご尽力をいただいた司馬良一先生が2021年8月29日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

(一社)兵庫県音楽療法士会会員一同

【司馬 良一先生を偲んで】

鞘本 尚子



兵庫県音楽療法士は養成講座で先生のご講義を受け、明石のリハビリテーション中央病院のドクターであった先生のお力添えも有り、県立総合リハビリテーションセンターの見学をさせていただきました。

また兵庫県音楽療法士認定審査委員長だった先生には、多くの審査（基礎講座修了後の専門講座へ進むための審査・認定審査・更新申請審査他）を担当していただき、たびたびの認定審査会への出席、認定証交付式では審査講評をしていただきました。兵庫県音楽療法士は全員お世話になったのです。

そして兵庫県音楽療法士会では、監事として理事会や総会にご出席いただきました。

司馬先生はチェリストでアマチュアオーケストラに所属しておられ、生涯オーケストラ活動を愛してやまない、最期まで「オケマン」でした。年2回の演奏会にはお誘いいただき、9月19日も演奏会が予定されていて約束をしていたのですが・・・3月の演奏会でチェロを演奏されるお姿を思い出し、やさしい笑顔を思い出し、とても寂しく悲しいです。

【司馬 良一先生への感謝の言葉】

渡邊 幸子



司馬良一先生には兵庫県立リハビリテーション中央病院において2003年より約18年間、大変お世話になりました。当時は音楽療法の社会的認知度が低く、特に医療現場への導入数はわずかでした。導入に至るまでに多大なるご尽力をいただいたことは言うまでもありません。音楽療法は週1日の導入から週4日の実施となり、リハビリテーションにおける音楽療法の効果検証を次第に深めていくこととなりました。司馬先生にはリハビリ医療の視点から多くのご指導や励ましをいただきました。

司馬先生は音楽家でもあられ、クリスマスのセッションでチェロを演奏してくださった時は感動的でした。

《兵庫県音楽療法士会法人化記念シンポジウム》において「兵庫県リハビリテーション中央病院の取り組み」についての登壇を、《日本音楽療法学会近畿学術大会》において研究発表の座長をご一緒させていただきましたのが、私にとりましては夢のような経験でした。

司馬先生の突然の訃報は今でも信じられない思いです。院内の廊下ですれ違ふと、いつもにこやかに駆け寄ってきて一言声をかけて下さったこと、いろんな場面が蘇ってきます。

令和3年度研修会・事例研究会事業

コロナ禍で実施された対面研修会では人数制限をし、検温や消毒など細心の感染予防対策をしながら開催いたしました。また、今年度はオンデマンド研修会も取り入れました。

第76回事例研究会 4月10日

岡崎 香奈 先生

神戸大学国際人間科学部准教授



☆オンデマンド研修会 vol.1 4月26日～5月17日

那須 貴之 先生

医療法人篤友会 坂本病院療法部
音楽療法課課長

「音楽療法やって☑」



第117回研修会 5月30日

☆オンデマンド研修会 vol.2 6月20日～7月10日

山田 由紀子 先生

音楽療法グループ アン・ディ・ムジーク代表
西宮音楽療法研究会理事

「高齢者のための
音楽療法
～楽器活動を中心に考える～」



第77回事例研究会 7月11日

岩井澤 奈巳 先生

日本音楽療法学会認定
音楽療法士
精神保健福祉士



第118回研修会 8月21日

(※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

☆オンデマンド研修会 vol.3 9月10日～10月3日

三宅 聖子 先生

神奈川県立保健福祉大学大学院
リハビリテーション科非常勤講師
渋谷区社会福祉事業団施設長

「音楽を用いた
生活リハビリテーション
～豊かに生きる力を育む～」



第119回研修会 11月7日

☆オンデマンド研修会 vol.4 12月2日～12月22日

藤本 禮子 先生

(一社)日本音楽療法学会
理事長
NPO 法人音楽療法の会
武蔵野理事長

「高齢者の音楽療法
～コロナ禍での取り組み
から学んだこと～」



第120回研修会 12月19日

土野 研治 先生

日本大学芸術学部特任教授
日本音楽療法学会副理事長

「発達障害児・者への
音楽療法 -音・音楽による
表現への寄り添いと活用-」



第122回研修会 2月11日

山田 俊之 先生

九州大谷短期大学教授
ボディパーカッション教育振興会代表



「子どもから大人まで楽しめる
ボディパーカッションにチャレンジ！」

第121回研修会 1月10日

☆オンデマンド研修会 vol.5 令和4年1月18日～1月31日

目黒 明子 先生

日本音楽療法学会認定音楽療法士
精神保健福祉士、認知症ケア専門士

「音楽療法とメンタルヘルス」
～老年期の生きづらさに音楽で寄り添う～



県内参加型コンサート開催事業（兵庫県補助事業）

● 2021年10月17日（日）稲美町コスモホール

秋晴れの青空が広がった10月17日、稲美町コスモホールにて音楽療法参加型コンサート「秋だ！祭りだ！！」が開催されました。

コロナ禍でコンサートの告知が難しく、チラシをお届けしても積極的に参加したいというお返事がなかなかいただけない中での開催でしたが、当日足を運んでくださった方もあり、生の音楽を楽しもうと95名の来場がありました。検温、消毒、マスク等の感染対策をしっかり行い、間隔を空けての着席にも快くご協力くださいました。

オープニングは地元の民謡『デカンショ節』。締め太鼓やフルートの音色でホールはお祭り会場に。お馴染みのマンボやサンバの曲が流れると自然に手拍子が起こり、小さな子どもからご高齢の方々まで一緒に体を動かし、一気に一体感が生まれました。『秋のメドレー』鑑賞では秋の映像を見ながら、『故郷』では手話で参加くださり、皆さんの笑顔が広がり

表情が和らいでいくのがマスクをしていても感じられました。

終演後、「とっても楽しかった」「徐々に音楽が聞けて嬉しかった」「子どももはりきって踊っていました」「またしてほしいです」など出口で声をかけていただきました。

スタッフは、開催できるのかどうかという不安を抱えながら、様々な想定をしながら試行錯誤してきました。そんな中でまずは開催できたこと、そして何より会場に来られた方々と一緒に音楽空間を作り出したことに大きな喜びと手ごたえを感じました。改めて「空間を共有し、一緒に楽しむ」ことを実感できた貴重な時間でした。

コンサートにご来場くださった方々、そして関わってくださったすべての方々に感謝するとともに、地域に根差した活動の意義を感じました。



● 2021年10月31日（日）淡路市立サンシャインホール

10月31日、淡路市立サンシャインホールでの参加型コンサートは、老若男女問わず90名の方が来場されました。当日がハロウィンという事もあり、テーマを「おいでよハロウィン ようこそハロウィン」としました。チラシに仮装大歓迎と掲載したところ、予想以上の方がいろいろな仮装姿で参加してくださいました。

会場が暗闇に包まれると魔女が登場し、かぼちゃに魔法をかけてシンデレラに変身、ハロウィンの衣装を纏った会員たちと魔法の曲で踊り、コンサートが始まりました。リズムカルな曲に合わせて会場の皆さまと体を動かすと、笑い声が漏れ聞こえ、会場の雰囲気が和んでいくのを感じました。舞台が再び暗転しヒュー笛で怖い雰囲気になったところで、会員たちが昭和アニメ、今流行のアニメからそれぞれ

1曲を合奏すると会場から歌声も聞こえてきました。クラリネット二重奏の鑑賞では会場は静かな雰囲気にも包まれ、最後は出演者全員が、色とりどりのアフロヘア姿で歌って踊って皆さまをお見送りしました。

コンサート当日は緊急事態宣言が解除されていましたが、打ち合わせの時は宣言中ということもあり、中止という最悪のシナリオも想定し、不安を抱えながらリハーサルを行い、会場の方とも協議を重ねてきました。そのような中でコンサートが開催できたこと、いろいろな仮装をした方たちはじめ会場の皆さまと音楽を通して「ハロウィンの世界」を共有できたことに喜びもひとしおでした。

当日ご参加くださった皆さまはもちろん、開催に関わってくださったすべての皆さまに深く感謝いたします。



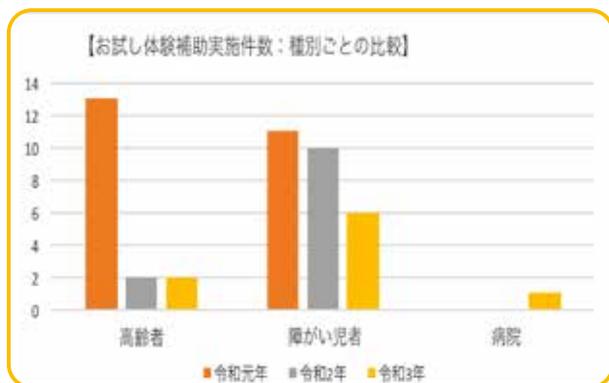
※当会ホームページのトピックス欄でも、両会場の当日の様子をご覧いただけます。

音楽療法普及・定着強化事業

令和3年度も前年と同様に「県内参加型コンサート」「お試し体験補助」「定着促進補助」の三事業を行いました。昨年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から実施できなかった「県内参加型コンサート」を、今年度は2か所で開催する事ができました。予想以上にたくさんのご参加をいただき、また会場内での感染予防対策にもご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

補助事業の新規導入施設数は大変少ない状況ですが、高齢者の介護予防や障がい児者施設からのお問い合わせは少しずつ増え始めていますので、今後、導入に繋がる事を期待しています。事業内容では、新しくリモートセッションに対しても一定の条件付きで補助対象としました。未だ新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、私達は従来からの対面セッションに加え、個々の施設での感染対策に合わせてリモートセッションやオンデマンド配信、季節ごとにビデオレターを送るなど、音楽療法が途切れないよう多様なセッションを展開しています。

状況に合わせて使いやすい補助事業を考え、多様化する施設の要望にすぐ対応が出来るように日々準備をし、それらをよく理解した上でマッチングさせることがとても大切で難しいと感じた一年でした。



※音楽療法の新規導入をご検討の際は、事務局へお問い合わせください。

information

♪ 音楽療法の実施や講演依頼等 … 事務局へお問い合わせください。

● 問い合わせ先 E-mail : jimukyoku@hmta.jp Fax : 078-261-9602



一般社団法人
兵庫県音楽療法士会

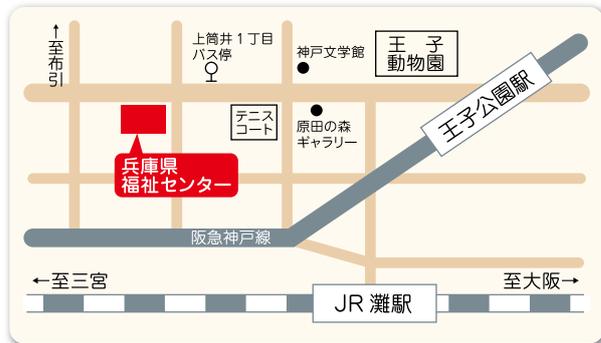
〒651-0062
神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター6F
一般社団法人兵庫県音楽療法士会事務局
TEL (078)261-9601 FAX (078)261-9602
E-mail : jimukyoku@hmta.jp

【アクセス】

JR 灘駅・阪急王子公園駅下車徒歩約10分
神戸市バス(90・92系統)上筒井1丁目バス停下車すぐ

【ホームページ】 <https://hmta.jp>

ホームページでは、音楽療法に関すること、会の活動や公開研修会の案内などをご覧いただけます。



こちらより
アクセスして
いただけます♪



今号は新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し開催できた、「20周年記念式典」と「県内参加型コンサート」を中心にお伝えしました。支えていただいた皆さまに感謝いたします。

今後も、会員が「音楽療法の普及、定着」を目指し、県内各地で活動している様子をお届けできればと思います。最後になりましたが、広報誌発行にあたり、ご協力いただいたすべての皆さまに感謝いたします。

(広報部 並河靖枝)